

スーパーマーケット販売統計調査資料

2017年11月実績 速報版(パネル270)

10月実績 確報版(パネル270)

(2017年12月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016年4月実績よりパネル対象企業変更(275社→270社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1m²あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮3部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜	惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカーリー、ファーストフード	
	日配	豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム		
	一般食品	調味料、瓶缶詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類		
	非食品	日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具		
その他	テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)			

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014年4月実績よりエリア区分を8地方区分による6地方に変更

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2017年12月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年11月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	86,682,571	100.0%	101.4%	100.0%
食品合計	77,144,759	89.0%	101.6%	100.1%
生鮮3部門合計	29,279,795	33.8%	100.6%	98.9%
青果	11,460,550	13.2%	96.2%	94.8%
水産	7,344,902	8.5%	101.5%	99.7%
畜産	10,474,343	12.1%	105.1%	103.2%
惣菜	8,508,616	9.8%	102.9%	100.5%
日配	16,708,297	19.3%	101.7%	100.6%
一般食品	22,648,052	26.1%	102.5%	101.2%
非食品	7,120,671	8.2%	99.7%	99.3%
その他	2,417,181	2.8%	98.9%	98.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	11,702,148	43	101.0%	99.4%
関東地方	32,006,714	73	101.9%	100.8%
中部地方	10,604,577	53	101.9%	99.7%
近畿地方	19,143,620	44	101.0%	99.7%
中国・四国地方	8,526,536	34	99.7%	98.4%
九州・沖縄地方	4,698,977	23	101.8%	100.8%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	682,947	45	98.3%	98.3%
4~10店舗	3,812,297	72	100.7%	99.2%
11~25店舗	9,858,500	64	101.1%	99.6%
26~50店舗	15,375,627	45	100.9%	99.5%
51店舗以上	56,953,200	44	101.6%	100.3%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	84,419,904	
総店舗数 (店舗)	7,897	店舗平均月商 (万円)	10,977	
総売場面積 (㎡)	13,099,606	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.6	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年12月21日

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会
 一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2017年10月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	87,872,781	100.0%	99.4%	98.1%
食品合計	78,959,716	89.9%	99.6%	98.2%
生鮮3部門合計	29,887,621	34.0%	97.8%	96.3%
青果	11,824,589	13.5%	91.1%	89.9%
水産	7,390,404	8.4%	97.5%	96.0%
畜産	10,672,628	12.1%	106.7%	104.7%
惣菜	8,752,286	10.0%	99.0%	97.1%
日配	17,314,535	19.7%	100.3%	99.7%
一般食品	23,005,274	26.2%	101.6%	100.2%
非食品	6,485,475	7.4%	98.0%	97.9%
その他	2,427,632	2.8%	96.5%	96.7%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	12,155,865	43	100.0%	98.8%
関東地方	32,524,544	73	99.7%	98.4%
中部地方	10,723,601	53	98.1%	97.1%
近畿地方	18,797,577	44	98.7%	97.9%
中国・四国地方	8,775,337	34	97.5%	95.9%
九州・沖縄地方	4,895,857	23	103.1%	100.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	720,808	46	95.3%	95.3%
4~10店舗	3,844,388	71	98.4%	96.6%
11~25店舗	10,025,057	64	99.0%	97.0%
26~50店舗	15,872,309	45	98.5%	97.6%
51店舗以上	57,410,219	44	99.8%	98.5%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	85,688,123	
総店舗数 (店舗)	7,869	店舗平均月商 (万円)	11,167	
総売場面積 (㎡)	13,061,921	売場1㎡あたり売上高 (万円)	6.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2017年11月エリア別気候状況

1. 月の気温：東・西日本で低かった。北日本では平年並だった。

上旬：北日本と沖縄・奄美で高かった。東・西日本では平年並だった。

中旬：東・西日本で低かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。□

下旬：北日本で低かった。一方、沖縄・奄美で高かった。東・西日本では平年並だった。□

2016年11月との比較：上旬は北日本を中心にかなり気温が高く、中旬は東日本を中心にかなり気温が低くなった

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2017年11月			2016年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.4	-1.0	-1.7	-5.1	0.2	-3.5	6.5	-1.2	1.8
東北地方	1.6	-1.0	-1.6	-2.8	0.7	-1.3	4.4	-1.7	-0.3
関東甲信地方	0.6	-1.1	-0.1	-1.9	1.1	-0.6	2.5	-2.2	0.5
北陸地方	0.5	-1.9	-1.2	-2.2	1.6	0.0	2.7	-3.5	-1.2
東海地方	0.6	-1.5	-0.5	-1.5	1.8	0.5	2.1	-3.3	-1.0
近畿地方	-0.2	-1.8	-0.6	-2.0	1.9	0.8	1.8	-3.7	-1.4
中国地方	0.1	-1.5	-0.5	-1.7	2.2	0.8	1.8	-3.7	-1.3
四国地方	0.0	-1.8	-0.7	-1.7	2.3	1.1	1.7	-4.1	-1.8
九州北部	0.5	-1.6	-0.3	-1.5	2.9	0.6	2.0	-4.5	-0.9
九州南部・奄美地方	0.4	-1.1	-0.3	-0.9	2.7	0.8	1.3	-3.8	-1.1

平年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

前年差

+2°C以上

+1°C以上

-2°C以上

-1°C以上

2. 月の日照時間：北日本日本海側で少なかった。一方、東日本と西日本日本海側が多かった。

上旬：東日本でかなり多く、西日本で多かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。□

中旬：沖縄・奄美でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった。北・東日本太平洋側と西日本では平年並だった。□

下旬：北日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美で少なかった。東日本太平洋側では平年並だった。

2016年11月との比較：上旬北日本を中心にやや長い日照時間であったが、ほぼ前年並みとなった

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年11月			2016年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	89	95	66	48	103	84	41	-8	-18
東北地方	116	89	86	88	108	84	28	-19	2
関東甲信地方	138	99	100	110	95	71	28	4	29
北陸地方	152	72	88	112	126	95	40	-54	-7
東海地方	138	94	106	116	101	70	22	-7	36
近畿地方	143	103	100	111	115	76	32	-12	24
中国地方	135	116	91	94	104	79	41	12	12
四国地方	128	100	70	120	105	85	8	-5	-15
九州北部	123	115	75	124	90	75	-1	25	0
九州南部・奄美地方	107	77	72	130	101	91	-23	-24	-19

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

3. 月の降水量：北・東日本日本海側が多かった。一方、北・東日本太平洋側と西日本日本海側で少なかった

上旬：北日本日本海側と東・西日本で少なかった。北日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。□

中旬：北・東日本日本海側と沖縄・奄美で多かった。北・東日本太平洋側と西日本では平年並だった。□

下旬：北日本日本海側と東日本太平洋側、沖縄・奄美で多かった。北日本太平洋側と東日本日本海側、西日本では平年並だった。□

2016年11月との比較：上旬は少なく、中旬以降は太平洋側ではやや少なく、日本海側ではやや多い降水量となった

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2017年11月			2016年11月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	91	145	107	139	92	57	-48	53	50
東北地方	26	73	95	56	89	39	-30	-16	56
関東甲信地方	24	63	94	37	235	143	-13	-172	-49
北陸地方	55	172	99	87	48	64	-32	124	35
東海地方	21	93	69	56	140	125	-35	-47	-56
近畿地方	26	128	62	72	91	145	-46	37	-83
中国地方	32	52	75	42	115	139	-10	-63	-64
四国地方	44	116	95	67	107	160	-23	9	-65
九州北部	42	44	54	67	235	138	-25	-191	-84
九州南部・奄美地方	90	173	98	47	147	139	43	26	-41

平年差

平年比150%以上

平年比125%～149%

平年比50%以下

平年比51%～75%

前年差

+50%以上

+25～49%

-50%以下

-25～-49%

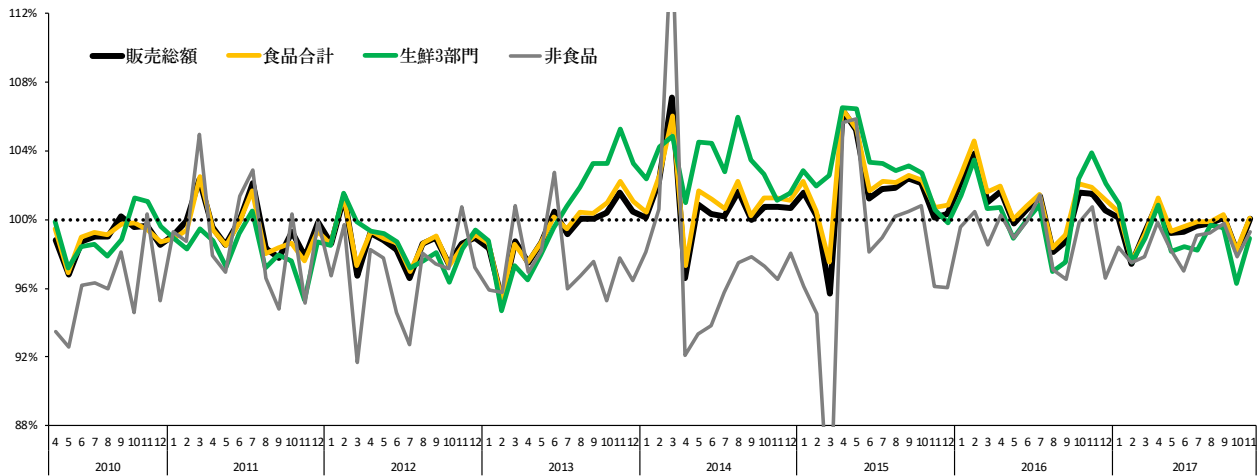
気象庁ホームページ・報道発表資料「11月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

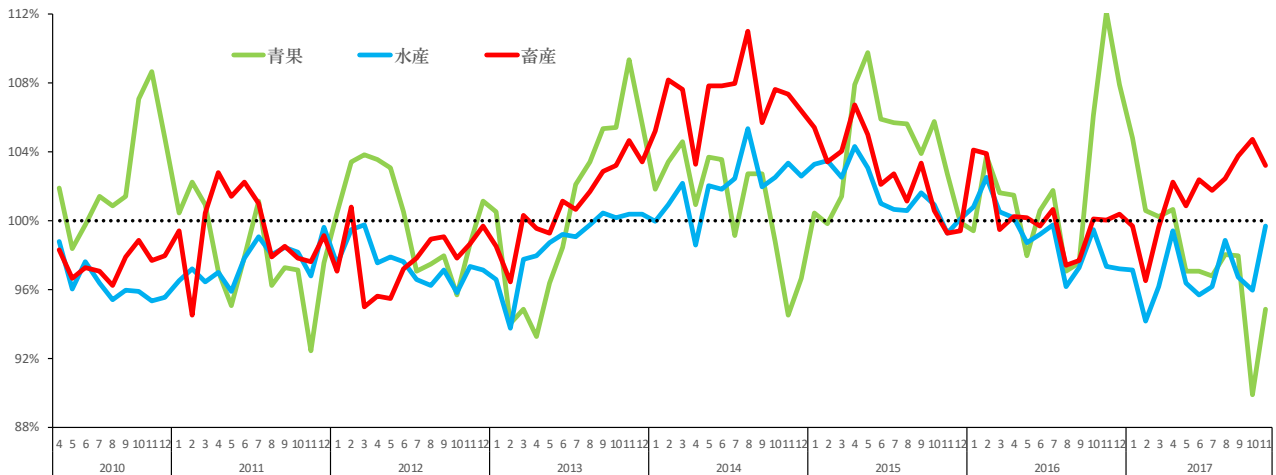
スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2010年4月～

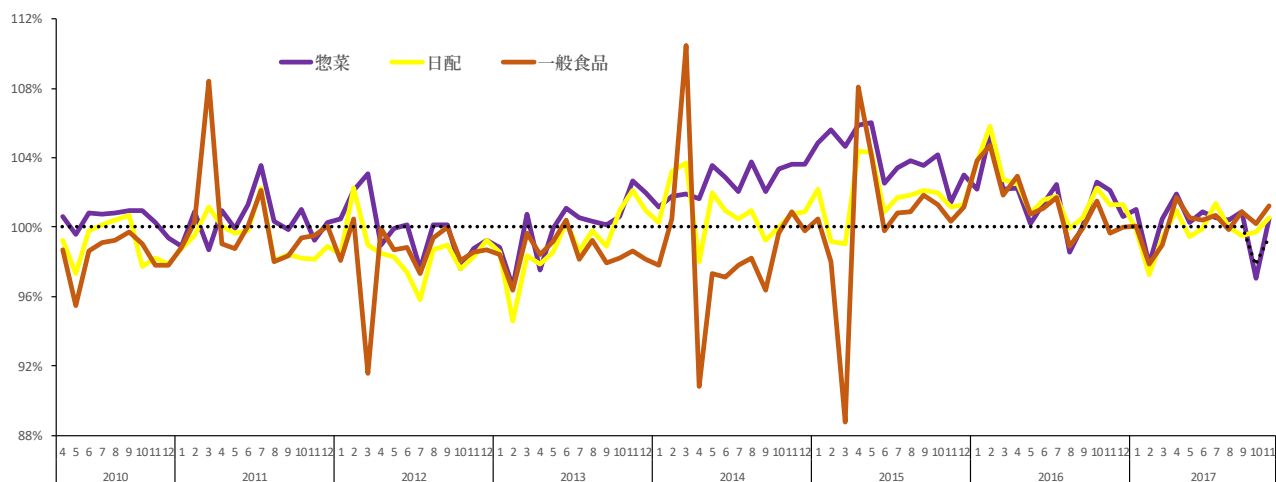
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2010年4月～2017年10月までは確認版による前年同月比、2017年11月は速報版による前年同月比

スーパーマーケット景気動向調査

2017年12月調査結果（11月実績）
（2017年12月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

12月調査（11月実績）結果概況

景気判断DIは現状判断、見通し判断共にやや持ち直しも

11月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+2.6の43.8、見通し判断も前月から+2.3の42.4となり、どちらも小幅な改善となった。

経営動向調査では、売上高DIが-10.0、収益DIは-8.6と大きく下落した前月から上昇した。前年比で相場安が続いていた青果相場が月後半から上昇したことや、水産、畜産相場が高止まりしていることで、生鮮仕入原価DIが5.8まで上昇し、販売価格DIや客単価DIがプラス圏に上昇したことが影響している。来客数DIは前月より上昇したものの、二桁マイナスとなった。

カテゴリー動向調査では、前年相場高騰の反動が残る青果DIが-23.3と引き続きマイナス幅が大きい。気温の低下により、冬物商材の動きがよく、鍋需要が高まりを追い風に畜産DIがプラス、他のカテゴリーDIも前月に比べやや上昇している。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、中核店舗景気判断DIが現状、見通しともにやや改善を見せたものの、他のDIは前月と同水準での横ばいでの推移となった。現状と見通し判断DIの乖離幅が縮小しており、方向感のない動きが続いている。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

総じて前月より持ち直しをみせたものの、引き続き厳しい環境が続いていることに変化はない。生鮮品相場や仕入状況が安定しないことが背景にあるが、消費環境に大きな改善がみられない状況が長引くことで、他業態も含めた価格・販促競争が激しくなっていると指摘が目立った。長期化する価格競争と一線を画すために、これまで以上に業態や企業特性や強みを訴求し、消費者から差別化される取り組みが求められる環境となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：43.8 (+2.6) 前月：41.2	消費者購買意欲DI 当月：44.1 (+0.3) 前月：43.8	周辺地域 競合状況DI 当月：40.1 (-0.8) 前月：40.9	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：46.2 (+0.1) 前月：46.1
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：42.4 (+2.3) 前月：40.1	消費者購買意欲DI 当月：43.3 (-0.4) 前月：43.7	周辺地域 競合状況DI 当月：39.2 (+0.2) 前月：39.0	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.8 (-0.2) 前月：46.0
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-10.0 (+6.7) 前月：-16.7	客単価DI 当月：2.5 (-1.2) 前月：3.7	来客数DI 当月：-13.1 (+5.1) 前月：-18.2	
収益DI 当月：-8.6 (+4.2) 前月：-12.8	販売価格DI 当月：1.1 (+4.7) 前月：-3.6	生鮮品仕入原価DI 当月：5.8 (+5.8) 前月：0.0	食品仕入原価DI 当月：1.1 (+0.2) 前月：0.9

カテゴリー動向

青果DI 当月：-23.3 (+7.4) 前月：-30.7	水産DI 当月：-9.3 (+8.1) 前月：-17.4	畜産DI 当月：7.0 (-4.8) 前月：11.8	
惣菜DI 当月：-1.3 (+8.4) 前月：-9.7	日配DI 当月：-5.3 (+1.8) 前月：-7.1	一般食品DI 当月：-3.7 (+1.4) 前月：-5.1	非食品DI 当月：-9.1 (+1.2) 前月：-10.3

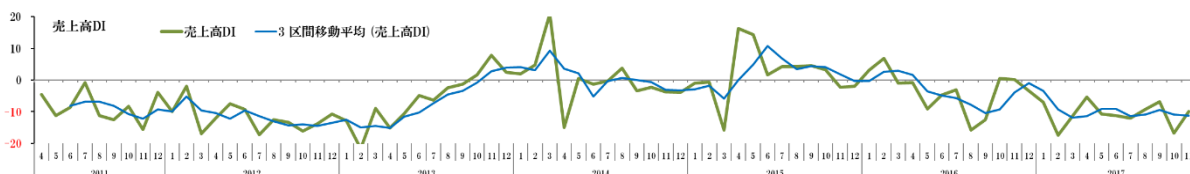
○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

12月調査（11月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

やや持ち直しもマイナス圏での推移が続く

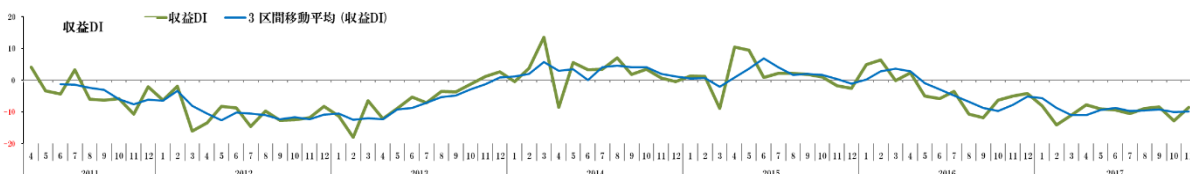
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	18.7	40.9	30.1	9.3	1.0	-16.7
売上高（当月）	10.0	39.4	31.1	19.4	0.0	-10.0



2. 収益DI

やや持ち直しもマイナス圏での推移が続く

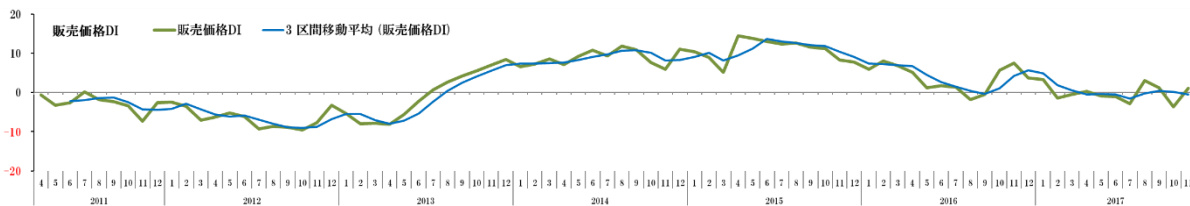
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	16.2	35.1	34.6	12.0	2.1	-12.8
収益（当月）	10.1	37.6	30.9	19.1	2.2	-8.6



3. 販売価格DI

やや上昇も頭の重い推移が続く

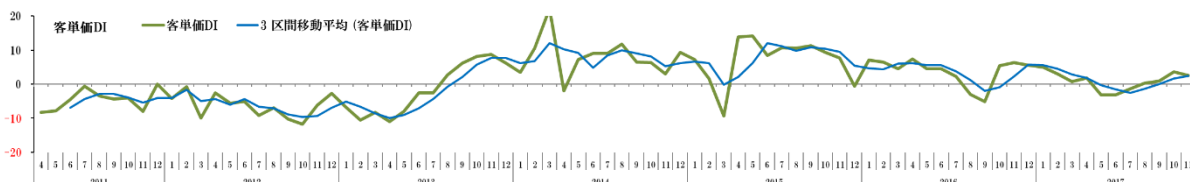
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	1.6	25.0	60.4	12.5	0.5	-3.6
販売価格（当月）	0.0	15.1	65.9	18.4	0.6	1.1



4. 客単価DI

プラス圏維持し底堅い動きが続く

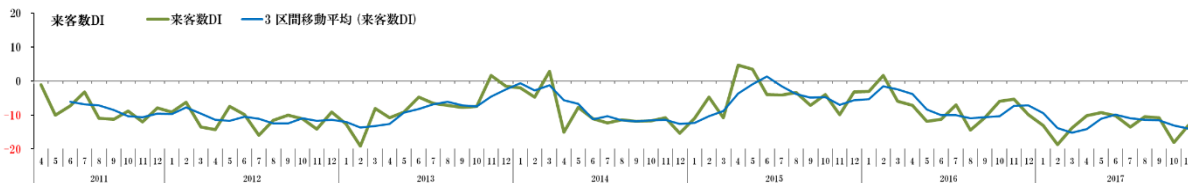
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.0	16.2	50.8	30.9	1.0	3.7
客単価（当月）	0.6	19.4	49.4	30.6	0.0	2.5



5. 来客数 DI

やや上昇も二桁マイナスの推移が続く

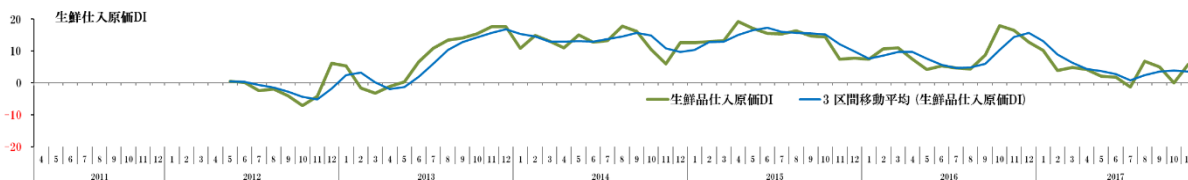
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	15.3	49.5	28.9	5.3	1.1	-18.2
来客数 (当月)	9.9	44.2	34.3	11.6	0.0	-13.1



6. 生鮮仕入原価 DI

やや上昇しプラス圏での推移が続く

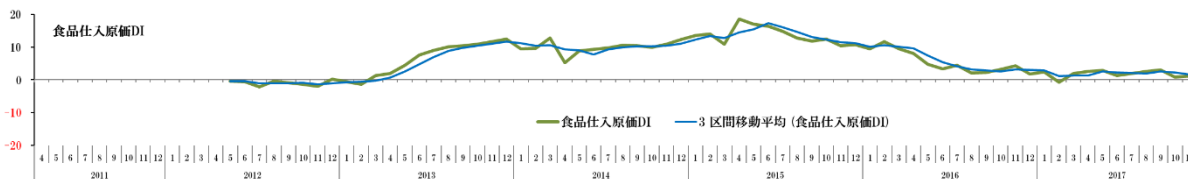
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	10.0	14.2	44.7	27.9	3.2	0.0
生鮮仕入原価 (当月)	2.8	12.5	46.0	35.8	2.8	5.8



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス域で横ばいでの推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	3.1	9.4	70.2	15.2	2.1	0.9
食品仕入原価 (当月)	2.2	12.8	64.8	18.4	1.7	1.1

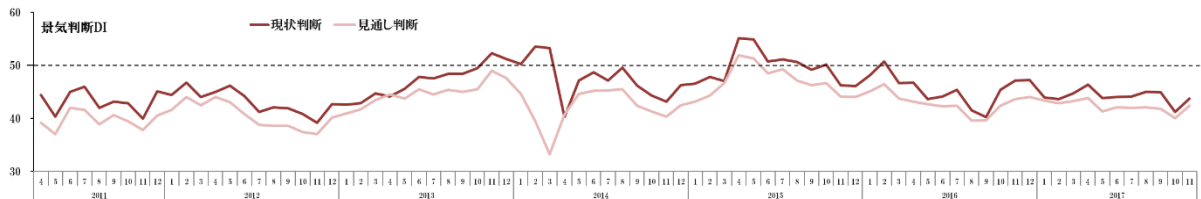


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共にやや改善

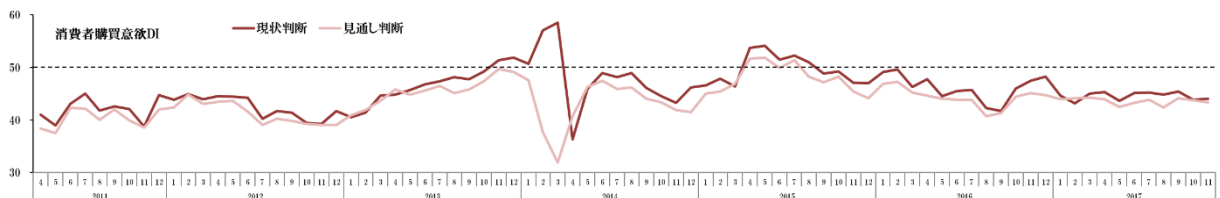
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	3.1	33.0	59.8	4.1	0.0	41.2
【現状】景気判断 (当月)	2.8	25.4	65.7	6.1	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	3.6	36.1	56.7	3.6	0.0	40.1
【見通し】景気判断 (当月)	2.2	31.1	61.7	5.0	0.0	42.4



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準から大きな変化なし

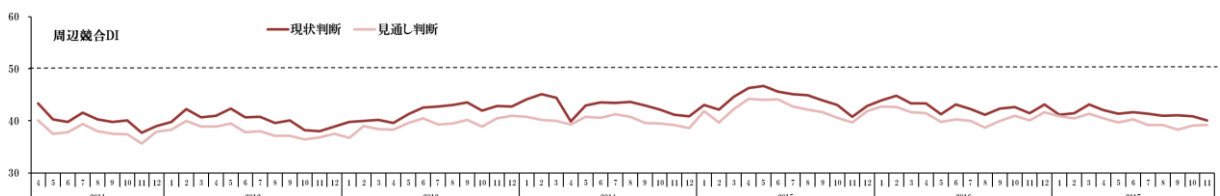
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.5	30.4	62.9	5.7	0.5	43.8
【現状】購買意欲 (当月)	1.1	28.2	64.1	6.6	0.0	44.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.0	30.9	63.4	5.7	0.0	43.7
【見通し】購買意欲 (当月)	0.6	30.0	65.0	4.4	0.0	43.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準から大きな変化なし

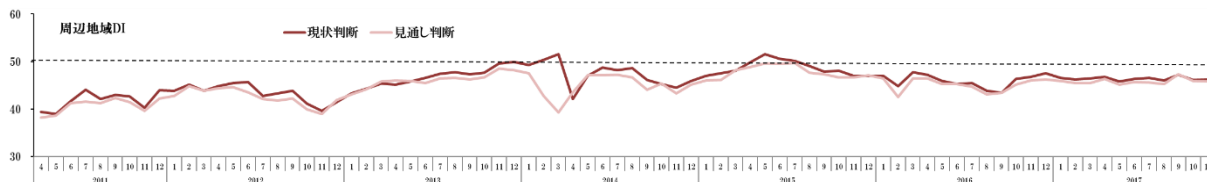
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	4.1	30.4	63.4	2.1	0.0	40.9
【現状】競合状況 (当月)	3.9	33.1	61.9	1.1	0.0	40.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.2	33.0	59.3	1.5	0.0	39.0
【見通し】競合状況 (当月)	5.0	34.4	59.4	1.1	0.0	39.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

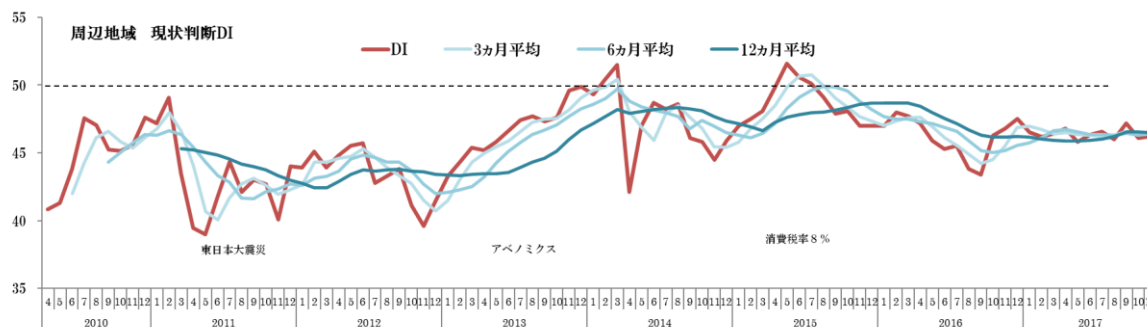
現状判断、見通し判断共に前月水準から大きな変化なし

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	16.7	80.7	2.1	0.0	46.1
【現状】地域景気 (当月)	0.6	15.6	82.1	1.7	0.0	46.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	18.2	78.1	3.1	0.0	46.0
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	18.0	79.2	2.2	0.0	45.8



長期傾向 (2010年4月～)

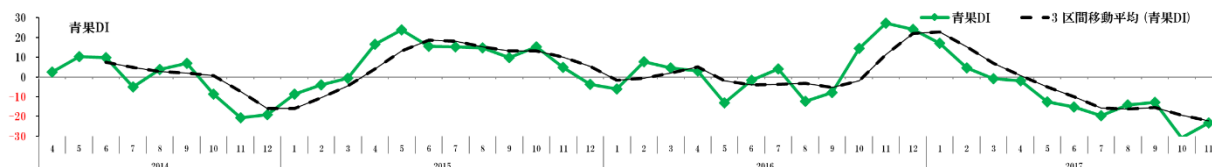
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、直近は12ヵ月移動線付近で下げ止り、横ばい推移が継続し、方向感のない動きが続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-22.3（かなり不調）

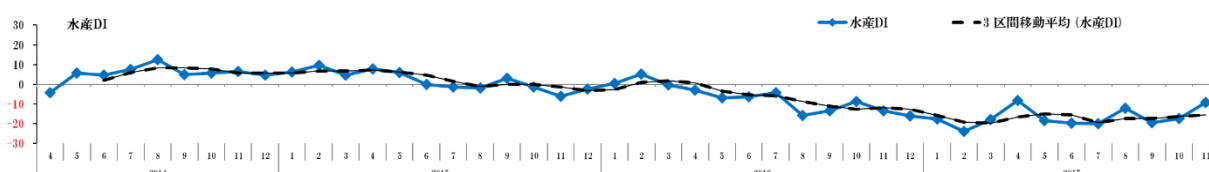
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	44.8	39.3	10.9	3.8	1.1	-30.7
青果 (当月)	25.6	50.6	16.9	5.2	1.7	-23.3



月の前半は前年高騰の反動により前年比で大幅な単価安となった。中旬以降、葉物を中心に徐々に相場が上昇し、サラダ関連野菜などがやや持ち直しをみせた一方で、品薄により十分に数量を確保できない店舗もみられた。気温の低下により鍋物需要の高まりがみられ、菌茸類が好調となったが、根菜類は単価安が続き不調となった。国産果物は全般的に不調となっているが、みかんの品質は改善傾向にあり徐々に動きがよくなっているとの指摘もみられた。

2. 水産DI：-9.3（やや不調）

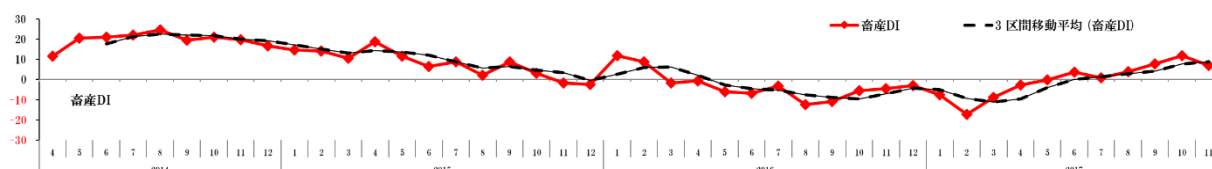
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	19.6	45.1	22.8	10.3	2.2	-17.4
水産 (当月)	11.2	35.3	34.7	17.1	1.8	-9.3



サンマや鮭が不漁で入荷が少なく価格高騰により厳しい状況が続いているが、気温の低下により、鍋用の切身、冷凍カニなどが好調となっているほか、ぶりしゃぶの提案により好調となった店舗がみられた。マグロは不漁により高値で推移しているものの、刺身類はやや復調の兆しがみられた。

3. 畜産DI：7.0（やや好調）

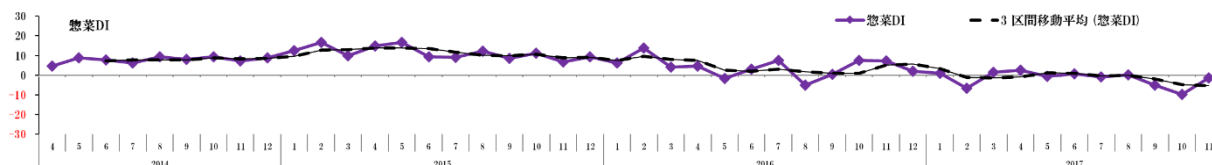
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	2.2	14.7	28.3	43.5	11.4	11.8
畜産 (当月)	3.5	18.0	35.5	33.1	9.9	7.0



全般的に相場が高値で推移するなか、気温低下により鍋物、しゃぶしゃぶ用商材の動きがよく、特に豚肉が好調となっている。国産豚肉高騰のため輸入豚肉の販促を強化した店舗が多くみられた。牛肉は和牛など高単価商品を好調とする店舗と輸入牛を好調とする店舗にわかれている。鶏肉もサラダ用を中心に好調とするコメントが多い。

4. 惣菜DI：-1.3（やや不調）

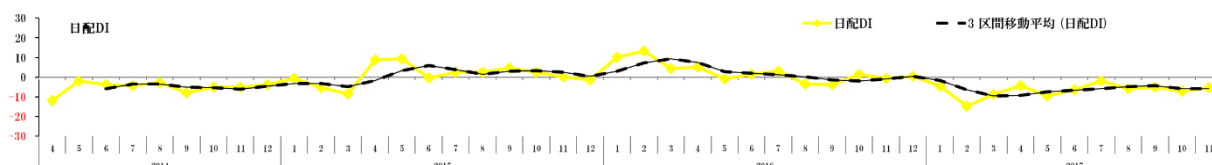
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	10.4	38.3	33.9	14.8	2.7	-9.7
惣菜（当月）	6.5	24.1	42.4	22.4	4.7	-1.3



前年との気温差により、揚げ物やホットメニューが比較的好調となっているほか、寿司類が不調となった。O157 報道のサラダ類への影響は和らぎつつあるが、前年青果相場高騰でサラダ類が好調であった反動もみられている。新メニューや出来立ての提供などの取り組み強化が成果をあげているとのコメントが多い。一方で、人手不足により対応が困難との指摘もみられた。

5. 日配DI：-5.3（やや不調）

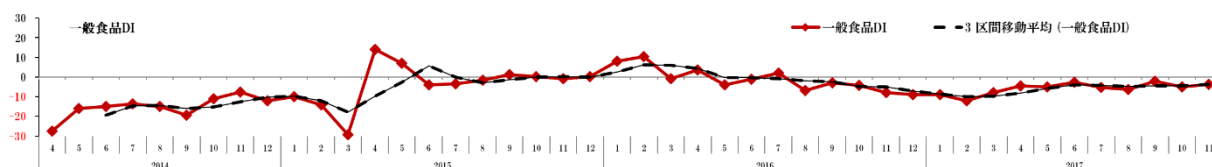
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.3	29.0	43.7	16.9	1.1	-7.1
日配（当月）	5.3	30.4	45.6	17.5	1.2	-5.3



前年との気温差により、冬物商材やおでん・鍋用商材など日配を中心に動きがよかった一方で、アイスや乳製品（チーズ類を除く）やデザート、飲料などの洋日配は不調となった。機能性ヨーグルトは前年対比で不調となった店舗が多い。メディアで取り上げられた納豆と豆腐が好調とのコメントがみられた。他業態との価格競争が厳しいとの指摘もみられた。

6. 一般食品：-3.7（やや不調）

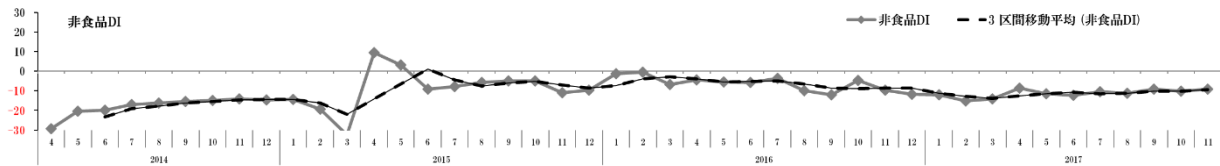
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.7	27.5	44.5	18.1	2.2	-5.1
一般食品（当月）	4.7	30.4	42.1	20.5	2.3	-3.7



前年との気温差により、スープ類やカレー・シチュー、鍋つゆ、麺類などの冬物商材の動きがよかった、一方で飲料はやや不調となった。米類は新米の価格がやや上昇しているなか、ブランド米を訴求して好調となっている店舗が多い。ボジョレーヌーボーは予約、販売とも苦戦したが、チーズなど関連商品の動きは比較的好かったとのコメントがみられた。メディアで取り上げられたさばの水煮缶など水産缶詰が好調となっている。

7. 非食品DI：-9.1（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	15.3	31.1	37.9	11.3	4.5	-10.3
非食品（当月）	12.2	28.0	46.3	11.0	2.4	-9.1



気温の低下によりカイロや入浴剤、冬用化粧品など一部の動きがよくなっているが、主力の消耗品の動きは鈍く、ホームセンターやドラッグストアなどとの価格競争の影響が大きく受けているとのコメントが多い。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2017年12月調査（11月実績）キーワードTOP3

1. 前年より気温が低い
2. 競合との価格・販促競争激化
3. 青果相場安（前年比較）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

11月実績速報版 181社
 10月実績確報版 194社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp